

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームげんきの家
(ユニット名)	あんず
所在地 (県・市町村名)	熊本県菊池郡菊陽町辛川1923-1
記入者名 (管理者)	上田 美幸
記入日	平成 20年 10月 30日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		今後も地域交流の機会を工夫したい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	朝礼の時理念を音読し意識付ける。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	げんきの家便りに理念を載せて家族の方にも知ってもらおう。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		地域掲示板にもホーム行事のポスターなどを貼らせて頂き参加を呼びかけたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	もっと密に連絡を取り合い行事等の把握をし参加をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の中には介護に疑問を抱えている方もいると思うので介護相談しやすいようご案内掲示でお知らせしている。</p>		<p>グループホームも特性を活かし認知症教育等を行なっていく。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>結果報告後勉強会など開き改善に努めている。統一ケアの取り組みも行い質の向上に向け努力している。</p>	○	<p>現場の声を聞き問題解決に向けた取り組みを続けていく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>二ヶ月に一回開催し、毎回報告とテーマを設けホームの理解と今後の運営に役立てている。</p>	○	<p>運営委員さんも忙しく参加できない方もおられるので年度変わりに委員の見直しを行う。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホームのパンフレットを置かせてもらい町民の人たちに知ってもらえるように協力を得ている。ホーム見学もある。運営推進会議ではアドバイスなど受けている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>ブロック研修会で権利擁護の勉強会をしたが回数が少ないのでほとんどの職員が理解できていない。</p>	○	<p>職員への啓蒙と勉強会を行い知識を広げて行く。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>申し送りノートに身体拘束禁止内容を上げている。また、勉強会などで確認し意識を高めている。</p>		<p>今後も続けていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はいろいろな心配事を聞き利用者が安心して生活できるように努めている。また、入院治療が必要で退去になる時はDrから十分説明がなされている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケア、レクレーションを通して利用者の気持ちが引き出せるように会話など行いコミュニケーションを図っている。	今後はもっと個人個人と密に話せる機会を作って情報交換に努めたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	げんきの家便りで活動の様子を報告している。健康状態の変化がある時はその都度TELで報告している。誕生会の際は招待状を利用者と一緒を作りご家族と食事会もしている。また、預かり金について月一回収支報告を通知している。異動についてはげんきの家便りでお知らせしている。	○ 家族から届いた手紙には必ず返事を出すように徹していきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を利用したり家族会等を利用して全体的にご意見を聞かせて頂いている。ホームに来られた時に意見など言いやすいように努めている。	問題が出た時は早急に話し合い改善策の取り組みを行う
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今まではホーム会を業務時間に行っていたので参加数が少なかった。10月より18;00から全員参加にしたので意見が活発になった。	○ ホーム会の内容を充実させるよう努める
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な欠勤がでたときは出来るひとを探して勤務してもらっている。行事のときは多めの出勤で調整できている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係が出来るように異動を最小限にしている。この半年でスタッフも定着し落ち着いてきた。	○ 意欲を持って働けるような職場作りを目指す

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修機会は多いので順番に行くように計画している。併設病院の勉強会にも多くの人が参加している。	○ 今後も続けていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームと交換研修を行っている。ブロック勉強会で意見交換も行っている。	○ 今後も続けていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間の親睦を図るためにレクリエーションや職員旅行等行なっている。	○ 今後は他部署との交流機会を作っていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個人の努力や実績勤務状態により定期昇給や賞与の評価に反映させている。	○ 各個人がスキルアップしてつなげられる様バックアップ体制を整えていく。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にご家族、ご本人に自由に訪問していただきホームの様子を見ていただいている。	○ 空室が出た時に体験希望の方は宿泊していただく
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居体験までは実現していないが見学などにより質問を受け相手の不安な事を直接介護者と話す事により安心感が持てている。	○

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方に応じたサービスを勤めている。		個性に応じて合うサービス(在宅、各種施設等)を選択してもらえる情報提供を心がける。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の都合もあり見学に来られたり一緒にお茶を飲まれたりするくらいにとどまっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの思いを知るために個別ケアを出来るだけ心がけているがまだ十分とはいえない	○	再度個別ケアで一人一人の思いを知るために強化していきたい。また、不安、喜びなどを知り、共に支えあう関係作りに努めたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	畑の手入れは以前から家族と共に行っていた。それに加え、ホームの草取り、誕生会への参加を行うようになった。	○	今後も続けていく。家族参加型の行事を増やし、家族と同じような思いで支援していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	衣替えは出来るだけご家族の役割として利用者と一緒出来るようお願いしている。また、日帰り旅行では各家庭の車で出かけ楽しそうな光景が見られた。		これからも行事参加の声かけを続ける
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援では、馴染みの場所に行ったりしている。利用者の誕生日には案内状を出している。		今まで同様続けていく
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	いつも一緒にいる仲間の顔や姿が見えないと心配される場面が増えてきた		気持ちよく過ごして頂くために個人の気持ちを早めに気づくなどの配慮を忘れないようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても併設病院に入院中のご家族はホームに顔を見せに来られている。別施設に行かれた方はスタッフと連絡のやり取りがある。		併設病院には顔を見に行きたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動からその人の思いを少しでも汲み取れる様に努力している。自分に合った暮らしを楽しまれている方もいる。		今後も希望に添えるように努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を家族に書いてもらっている。分らないところはたずねたりしている。		多くの情報を知る事に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの力に合わせて洗濯干しでも調理手伝いでも働きかけている。食事は個人に合わせて刻んだりお粥にしたりしている。	○	スタッフ間の情報交換を蜜に行い統一ケアを行う。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	情報は出来るだけ多くのスタッフより聞き取りニーズの検討を行っている。本人にも話を聞いている。	○	疑問などを出し合い問題点を浮上させケアカンファレンスノートを活用する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	年間計画は立てて行っている。家族の都合もありケア会議が遅れぎみになる事もある。		一人ひとりの変化に早く気づき、計画を立てていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受け持ち制にしているがまだ力が発揮できていない面がある。また、ケア記録の活用が不足している。	○	アセスメントが的確に出来るように勉強をする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショート利用やデイケアは、まだ実施まで至らなかった。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年間計画ボランティア以外にも、教会のミサに行ったり個人的な活動支援を行った。また、消防署から防災訓練の指導を受けた。	○	ボランティア慰問の継続
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望がある時は理容師さんに来てもらい散髪してもらっている。パン屋さんやヤクルト屋さんも来られている。デイの健康体操にも参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	支援センターからホーム見学をされ情報交換を行った。		必要性に応じて相談など行いたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院の受診のためスタッフが同行し病状報告をしている。精神科にも必要時は同行して相談している。		今後もより適切に医療を受けられるように病状把握して受診する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	必要時に行っている。	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	変化がある時は看護職員と連携をとり職員の判断や対処方法に取り組んでいる。	○ 今後は急変時の対応等判断できるように勉強会を行う。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	利用者の不安軽減や安心して過ごせるよう見舞いに行っている。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	まだそこまで行っていない。	○ 初歩的なことから計画を立て行う。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	病状悪化時は入院対応で行うよう入居時説明している。	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	出来るだけ混乱がないように情報交換を行い把握している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>ケア記録、業務日誌は保管かごを使っている。げんきの家便りで写真を載せるので家族の許可を得ている。</p>		プライドを傷つけないように今後も配慮していく。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>利用者が今何をしたいのかどうしたいのかという気持ちを察知して声かけをしている。</p>		家族も含め利用者の気持ちを大切に、一緒に支援して行きたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>一日の流れはあるが、起床時間、就寝時間、部屋で過ごす時間、嗜好は利用者の気持ちを大切にしている。また、外出支援で行きたいところに出かけている。</p>		個別支援をもっと充実させたいが共同生活なので難しい場面もある。考えて支援して行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>馴染みの理容師さんが散髪に来られ希望に合わせて散髪されている。行きつけの店に行く人もいる。</p>		外出時には身だしなみを整えるよう心がけて行きたい。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>その人に合った役割を持ってもらい野菜の切り刻みや味付け、味見などをして頂いている。</p>		献立を立てる時何でもいいと言われるが少しでも好みを聞いて献立を立てて行きたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>本人が飲みたいものを出すようにしている。喫煙は入居の契約時火災の原因となるためご協力頂きお断りしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	それぞれの利用者に併せて誘導しパットの種類を選び工夫している。また、パットのめくれで不快感、汚染のどを防ぐために見守り介助を行っている。		排泄時はプライバシー保護のためトイレの外で見守る。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者各々にお湯を入れ替え好みの湯加減で入浴してもらっている。希望により、入浴剤も使っている。下着の準備も声をかけながら一緒に行っている。		汚染時はすみやかにシャワー浴を行っている。今後も続ける。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不眠や寝つきの悪い利用者には会話や飲み物などで工夫している。室内の温度調整も行っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の切り刻みやつぎわけ、洗濯物干し、たたみなどお願いしている。外出支援も増えている。	○	これからも張り合いがあるように声をかけていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブ時好きな物を買えるようにしている。ヤクルト販売は月、金来て貰いそれぞれ自分で選び買われている。	○	お金の管理を工夫する。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は好きなきに出来るようにしている。車で出かける日は決めて支援している。	○	車での外出が好きなので計画して行う。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族会で猿回し劇場に行き大変楽しまれた。地域行事にも家族に参加されるよう働きかけている。		車酔い等で参加できない方もいっしょるので個別に楽しみを計画する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば自由に電話の取次ぎを行っている。一部の方ははがきのやり取りをされている。	○	続けて行う。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自由に気兼ねなく過ごしていただけるように配慮している。担当スタッフと利用者は誕生会の招待状の案内を送付している。		続けて行う。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束のないケアを行っているが、転落防止にベッド柵を使う時は家族の了解を得て行っている。また、併設病院の拘束排止委員会でも検討会を行っている。		今後も意識を高めて行きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日頃より日中の鍵かけは行っていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	以前はセンサーマットを使っていたが指導を受けてすぐ中止した。見守りが必要な方はドアを少し開けて様子を見ている。		今後も安全に配慮する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみはリビング、針は事務所に保管し本数をチェックしており、職員が取り出しをしている。また、共有スペースでは常に危険なものは置かず、環境整備に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの記録を残し、繰り返さないように注意を仰いでいる。併設病院の医療安全委員会にも報告を行い、予防対策を共有している。	○	日頃から確認の習慣や対応を身につける努力をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故発生時に備え以前より積極的に研修に参加している。当番制で勉強会も行っている。	○	意識を高めていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に利用者と訓練を行っている。病院合同の訓練も行った。運営推進委員会でも消防署から指導を受けた。	○	備蓄について検討されている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	新たに起こりうるリスクについてその都度家族と話し合い対応している。		続けて行う。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	管理日誌に利用者の特記、症状変化の記入をし、その日の状態が見える書式に変えた。それと平行して問題のある症状に対してカンファレンスノートを作りケアに努めている。	○	今後はスタッフ全体の病気に対しての知識を高める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は各勤務者が準備を行い再度別の勤務者がチェックを行い服用前は日付、名前、の確認を利用者と一緒に行っている。薬の内容は処方箋を読んで理解している。	○	間違いがないように各勤務で責任を持ち全員が把握できるよう努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	定時のトイレ誘導を行ったり、毎日ヨーグルトを出している。		今後も食物繊維の多い食品を取り入れていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行っている。出来ない利用者は介助している。併せて舌のブラッシングも行っている。また、訪問歯科が毎週水曜に来られ必要な人は見てもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べれない方には小さく刻んだりして、食事摂取量をチェックしている。水分も10時、3時、入浴後などのんで頂いている。		食事が入らない時は特に水分量を見るようにチェック表を作る。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設病院の感染予防委員会で安全対策などの話し合いがある。インフルエンザ予防ワクチンは利用者、スタッフ全員行っている。		酸性水を利用したり感染者が出た時はマニュアルに沿って対応していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、付近など台所用品の清潔に努めている。食材は賞味期限内に使うよう徹底している。		今後も毎日冷蔵庫や食品庫の点検を行い、消費期限などの食品管理を徹底する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関のインターホンの修理は行った。家の周囲に草花が増え、環境はよくなっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやソファーを移動し少しでも居心地が良いように工夫している。		リビングが全体に通路になっているため使い勝手が難しい面があるので、利用者に合わせて工夫していく。トイレの暖房について検討する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置個人の座る位置を気の合った利用者になるべく近くになるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いやすいように配置を相談しながら決め、時々と一緒に片付け等を行うようにしている。		家族からの絵手紙や写真などを飾り環境整備に今後も努める。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室に関しては換気扇やエアコンがあり温度調整や換気に十分気をつけ利用者の発汗や冷えに注意して対応している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の利用者が増えたのでぶつかったりしないように見守りに注意している。		車椅子自走の方もいらっしゃるので通りやすいようにしておく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の部屋の前に表札や写真などで目印にしている。トイレのマークや入浴中の札を下げている。また、夜間トイレが分るように電気をつけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植えたり季節の野菜を家族の方と利用者と一緒に植えたりミニトマトやピーマン、から芋、大根等収穫している。バルコニーに日よけの parasol を置き外に出やすいようにしている。		気候のいいときにバルコニーで昼食を食べるようにしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「利用者の方々と地域の方々とふれあいの機械を多く設けること」を目標に上げ努力した。以前よりボランティア慰問も増え、地域行事に参加する事で地域の方々とふれあいも出来、少しずつであるがホームの理解者も増えてきている。家庭的な雰囲気の中で利用者の方々が安心して自分らしく生活できるように、統一ケアを目指し努力していく。